

「シオニズムの考古学：現代ユダヤ社会におけるディアスポラとイスラエルの相克」
第二回公開ワークショップ

リトアニア・ポーランド・ロシアのユダヤ人労働者総同盟

「ブンド」におけるユダヤ民族主義の発展

発表者：西村木綿（京都大学人間・環境学研究科共生文明学専攻M2）

要旨：

1897年リトアニアのヴィリニユス（当時ロシア領）で設立された最初のユダヤ人社会主義政党、「ブンド」は東欧ユダヤ人世界で圧倒的な支持を誇ったが、その民族イデオロギーはシオニズムに真っ向から対峙するもの—現在の居住地でのユダヤ人問題の解決を主張する「文化的民族自治」であった。

本発表では、結党以前のブンドの運動史において一つの転換点をなす事象、1893年頃に運動内で採用された「プロパガンダからアジテーションへ」という新たな路線に焦点をあてる。この路線は、少数の知識人と労働者を担い手としていた初期ブンドの運動に、ユダヤ大衆運動としての道を開いたものであり、この時期なされた議論のちに発展・開花するブンドの民族イデオロギーの根幹をなすものであった。社会主義者として特殊「ユダヤ人」としてのアイデンティティを持たなかった初期ブンドの運動が、いかにして「ユダヤ人の権利」擁護を主張する「ユダヤ人の政党」となっていったのか、その過程の一端を、当時の資料を紹介する形で読み解いていきたい。

日時：2008年9月27日（土） 16：30 から 18：00

場所：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） 本館5階 527教室

東館は、万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>をご参照ください。

